

おおくら 議会だより



カンカネーノ パークゴルフカントリー

もくじ

9月定例会	2～3P
決算審査委員会	4P
一般質問	5～13P
委員会報告	14～15P
村民インタビュー !!	16P



発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報常任委員会 年4回発行
発行責任者／議長 海藤邦夫
印刷／共栄印刷株式会社

令和5年度決算を可決認定

9月定例会

令和5年度決算審査を中心とする9月定例会が、9月10日から13日の4日間の会期で行われました。令和5年度の一般会計・特別会計の決算審査の他、令和6年度補正予算の審査、条例の改正等を審議・可決・議案審議に先立ち8名の一般質問が行われ、活発な議論が交わされました。

令和6年度補正予算

問 農業関係災害復旧費の今後の補正見込は

答 災害査定後に実施設計・災害復旧工事費の予算を補正することになる。復旧方針がまだ出ていない箇所もあるが、数億円の増額が見込まれる

問 災害救助法適用による災害支援補助金について

答 床上浸水2件、床の張替え等に適用

問 塩藤田沢線送水管仮設配管工事について

答 林道復旧ができたら水道管の本工事をする



問 肘折地区防火用水送水管補修工事について

答 毎年予算にあげているのは、老朽化で連鎖的に起こる

問 畑地化促進事業費補助金について

答 天保ハリウ地区 1件

問 令和6年度のふるさと納税の増額補正について

答 トータルで今の時点で1億円プラスになっている。米不足が要因で申し込みが多くなった

問 中学校の備品購入について

答 壊れた保健室の電気温水器、調理室のファンヒータの更新

問 小学校の学習指導員報酬の減額について

答 今年度の募集に応募がなかった

問 デジタル推進委託料について

答 村内37事業所加盟、10月1日からバスでも使える

問 ポイント付与も始まる。広域で使えないか

答 基本的に村内で使ってもらう。広域で使う案もある

問 県営農地整備事業負担金（基盤整備）の減額について

答 県の当初予算の事業費が減ったため

問 小学校の学習指導員の減と中学校の増について

答 中学校の仕事が多いので増やした

問 肘折温泉源泉公園足湯修繕工事について

答 豪雨災害で被災した。景観に合わせたコンクリートにする。24時間利用できる。管理は地区に任せている

問 公共土木施設災害復旧

工事について

答 8月豪雨で赤松滝ノ沢線の崩落の復旧。国庫補助66・7%の残り。村が財源、激甚災害の適用はならない

問 保育所の備品購入費について

答 8月26日に雷が落ちて保育所の電話が壊れた。その購入費

条例の変更等

問 国保条例一部変更について

答 マイナ保険証を持たない方の資格確認書は確定している

問 バス管理について、二次元コード付きバスカードとは

答 カードを村で新たに作る

問 最上広域市町村圏事務組合の副管理者について

答 首長の集まりの理事会で提案し、各自自治体の議会に諮っている。自治体の議会での反対があれば廃案になる。次に広域の

議会にかけて決定する運びとなる。次の組合長に続く人がまだ若いので、暫定的に置く。しかし消防業務に関しては消防庁の管轄のため副管理者の権限はない

問 過疎地域持続的発展計画の無停電電源装置とは

答 清水浄化センターの装置、20年経過しているの

問 大蔵村辺地に係る総合整備計画の変更について、林道松橋滝ノ沢線の舗装について

答 道路状況や今後の事業について検討していく

問 辺地と認められる定義とは

答 バス停や公共施設からの距離等の点数化して決まる。変更は何回もできる

問 大蔵村診療所医科診療設備備品の購入契約について

答 現行のものが耐用年数を過ぎて数値に誤差も出る。毎日の診察で使うので購入した



報告

★9月11日に今回の7月25日豪雨災害は激甚指定になった。災害に係る予算を専決したい
★衆議院の選挙があったら選挙費の専決処分をしたい

★8月下旬に升玉発電所の発電機が故障した。現在は修理中。12月ごろに再開の見通し



決算審査委員会

一般会計

歳入

問 ふるさと納税の減の内容
答 山葵とソバのセットがなくなっただけで申し込みが減った

問 申込者は減ったか
答 1000件ほど減った

問 PRのしかたは
答 入り口であるECサイトの数を増やしたり航空会社のサイトにも頼んでいる

問 不用品売り払い額が多い事について
答 ローター除雪車と除雪ドーザの売却

問 売ったものは公的に使用してよいのか
答 公道は村からの貸し出しのため基本的には使わない

歳出
問 地域活性化推進事業費補助金について
答 地区への公民館の修理や整備等の補助

問 地域活性化支援事業補助金の使い道は
答 商品券を各家庭に配った

問 防犯カメラの設置場所は
答 清水集落交差点、作の巻は多方面の入り口、白須賀バス停、白須賀分岐点、日

問 令和4年からの事業。今年2件の警察への情報提供をした
問 地域おこし協力隊の不用額について
答 応募者がいない。要件は基本的に都市圏からの募集になっている。近隣自治体からは駄目。獲得できるように研修やアドバイスを受けたりしている

問 庁舎整備基本設計発注支援業務委託について
答 役場の基本計画の作成等、大和工営に委託。村で分かったなかった支援や基本実施設計のフォローサル等支援してもらった

問 升玉水力発電地域還元商品券交付事業補助金について
答 還元商品券の財源は固定資産税

問 その借入金について
答 山形銀行から借り入れ、返済は順調

問 小型除雪機購入費補助金の執行について
答 自走型小型除雪機1件あ

たり10万円、8件で80万円。トラクター3件26万7千円
問 デジタル推進業務委託についてどのようなシステムか
答 デジタル田園都市構想交付金を利用し、「くらし」の表示、地域通算「くらし」のシステムの構築等。NTTネクシア、ハムシステム庄内に委託

問 公用車購入について
答 プリウスを購入。15年経過で更新している

問 山間地域等農業機械導入支援事業費補助金について要件や実績は
答 3件利用。田植え機、トラクター、コンバイン。中山間地50a以上の耕作面積で7年以上の耕作が要件

問 7年の制約をなくしたらよいのでは
答 今後視野に入れていく

問 小型無人航空機空撮業務委託料について
答 今後の農地集約の参考のため滝ノ沢地区の田を撮影。地区にいない人の田もあるため行なった

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

問 中学校選手派遣補助金について
答 中体連の県大会以上の補助。交通費、宿泊費、登録料等。バレー部、バド部、卓球部、陸上部、吹奏楽部

特別会計

国民健康保険会計

問 国保の今後は
答 医療費一人当たり5万円程度増えている。薬剤が高騰したため。県の納付金の負担を完全統一するまで基金を取り崩すが税率の引き上げも検討

問 収入未済額が増えている。不納欠損は
答 これでも減った。税率上げればまた増えるだろう。不納欠損の線引きは生活保護に近い人や差し押さえできない人に適用

簡易水道会計
問 収入未済額について
答 3月31日に公営企業会計に変わったので4月1日納期徴収する分が入っていないので大きく見える

へき地診療所会計
問 荒川医師退職後の今後は
答 山形県地域医療センターから自治医大出身の医師を1人2年派遣してもらえ荒川医師は来年度で引退したが週に何度か来てもらえる。常勤の医師は前述の派遣医師1人。郡内全体でも医師が足りないので派遣してもらいながら対応したい

ここが知りたい

村政を問う

一般質問
9月
定例議会

一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

8議員が一般質問

6P 佐藤 勝 議員

○害獣被害対策は
○農地放棄防止は災害復旧から

7P 加藤 忠己 議員

○白須賀地区の交通信号機撤去後の交通安全について

8P 八鍬 信一 議員

○上竹野烏川線(烏川地内)の道路改修
○銅山川(通り流域)の河床掘削

9P 伊藤 貴之 議員

○肘折温泉に観光客を呼ぶために

10P 早坂 民奈 議員

○避難所運営の検証を
○交通弱者への救済は

11P 須藤 敏彦 議員

○災害時の防災行政無線の必要性

12P 佐藤 雅之 議員

○肘折防災センター、夜間安全避難のために照明設置を
○訪問介護報酬引き上げの声を地方から

13P 斉藤 光雄 議員

○村政について村長に問う 7質問

9月定例議会は6月定例会と比べ、沢山の方々の傍聴者は無く、関心を持っていただく議会にせねばと思わせる風景でした。また、定例会終了後に議会改革の一環として、第一回目の議員定数等に関して全議員参加で、色々な意見が、各議員より発言、議論されました。今後定数に関して継続的に実施し、速やかに村民の皆様にお伝えできると感じております。
(おおくらくんより)





佐藤

勝 議員

害獣被害対策は

村長 重要課題とし最大限注力する

問

村内で害獣の目撃情報や農作物への被害が多発している。特に熊や猿、猪等の目撃情報や農作物への被害が山間部だけではなく、村内全体で発生している。

村でも電柵や罠、檻の製作や設置等、対策を講じているが、これらに関する設置や見回り、餌代や解体処理などの報酬を伺いたい。

答

報酬は「大蔵村鳥獣被害防止対策協議会」と一般会計から経費を支出している。協議会からは、被害対策実施隊員の作業従事1時間あたり1,000円を支払っている。また、一般会計からは、捕獲実績により1頭あたり、熊が20,000円、猿が5,000円、猪や日本鹿には10,000

円を捕獲補助金として支払われている。人的被害が予想される熊については「大蔵村ツキノワグマ出没対応マニュアル」に従い、県や警察、猟友会と連携し、危機レベル3に

達した場合、危機管理室が主体となり、その対策に当たる。鳥獣被害対策は村の農業情勢に大きな影響を及ぼす重要課題として対策に最大限注力していく。

農地放棄防止は災害復旧から

村長 災害に強い体制を構築したい

問

大雨による村内の被害は膨大な件数になっていて、特に農地や水路、農道等への被害が多く、中でも水路への被害が多く、最も水が必要な時期にきている水稲や園芸作物への補給が出ない状態が続いた。また、山間部の水路は壊滅的な状況である。幸い村の敏速な対応で何とか水は確保できたが、本格的な復旧には程遠い。私が心配しているのは、毎年繰り返される被害に対し、大きな負担をして

まで農業を維持する気力が高齢化の進む山間地域の農家に残っているのか？これを機会に廃農を選択する人が多くなる事に危機感を持っている。この現状をどの様に捉えているのか伺いたい。

答

村としても災害による復旧費用の負担や、農業経営の圧迫に併せて離農者の増加に危機感を持っている。この度の災害に関しては、県の「農林水産物等災害対策事業補助金」を有効に

活用し、「大蔵村農業関係災害緊急復旧事業」を発動し、復旧作業を支援する農家の負担軽減のため、農地農業用施設については、事業費の限度額を100万円とし、補助率を90%と設定した。既に専決予算で1億円を計上している。

災害に強い体制を構築するため、「多面的機能支払交付金」等を活用し、水路などの維持管理を徹底し、地域計画との整合性を図りながら、農地の集約化などで管理しやすい圃場整備の対策が必要と考える。



加藤

忠己 議員

白須賀地区の交通信号機撤去後の交通安全確保について

村長 カーブミラー設置
前向きに検討

問1

七月七日、地区において新庄警察より、信号機の撤去の説明を受けた。理由としては国道458号開通による交通量の減少、信号機の経年劣化の進行、維持管理の為の経費の問題との事であった。撤去する事は決定事項で早ければ二ヶ月位で撤去になる予定。国道458号開通時より点滅信号にするとの説明であった。信号機は九月四日に撤去されている。信号で交通

事故防止、安全性が守られていたと思うが、村として今後事故防止、安全性の維持をどのような方法で行っていくのかお聞きたい。また集落を通る大石田・畑線はどのような区分になるのか伺いたい。

答1

県道大石田・畑線の区分については、そのままである。今まで赤松方面と肘折方面への分岐丁字路から上竹野接続部分までは現在のところ国道となってい

るが、県からの道路管理についての移管通知をもって村道となる見込み。カーブミラー、標識の設置を予定している。

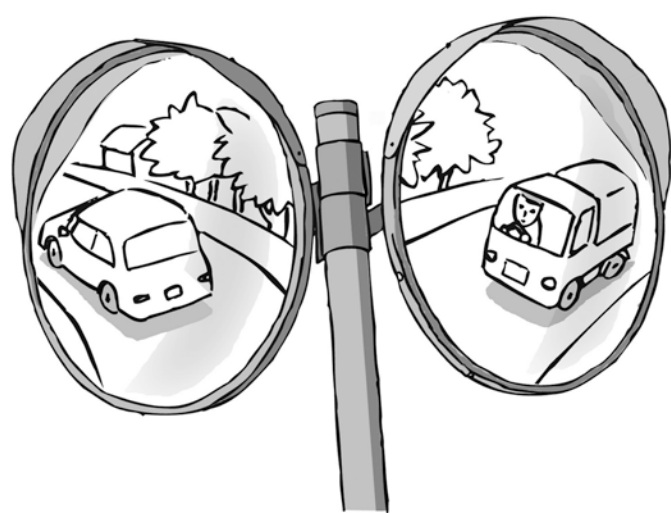
問2

比良方面から交差点に進入した場合、旧大蔵橋方面から来る車が道路中央まで行かないと確認できない。右側、坂の上の方から来る事もあり危ない。何故県道が優先でないのか、また、撤去説明時に地区の人々より、横断歩道の塗り替え、交差点の街路灯を明るくする事、坂の上より下って来る車が交差点進入時にスピード減速の標識等の設置が必要であるので、是非お願いしたいとの事であった。

答2

丁字路交差点での一時停止基準は交通規則基準で定められており、丁字路にぶつかる側が一時停止、左右の直進側が優先になっている。村交通安全協会と交通安全母の会では改善の

要望書を提出したが、覆る事はなかった。しかし、旧大蔵橋方面を確認できるカーブミラーの設置を前向きに検討するとの回答を得ている。旧大蔵橋方面が村道であり、一時停止の標識と止まりの書き込み等を予定している。撤去説明時、住民の方々からいただいた要望は強く受け止めている。





八鉞 信一 議員

「上竹野烏川線（烏川地内）の道路改修 村長 県・土地改良区と検討

問 村道54号「上竹野烏川線」通称山崎地内において、大雨の度に上流からの雨水等により水路から越水し、道路が冠水状態になっている。

当然、通行止めが発生し、迂回通行となり大変不便を来している。

要因は用水路のサイズの不適合と、末端の放流までの距離が挙げられる。

又、当道路の用地は確保済みであり、幅員の改良工事と適正な水路の整備を、早急を実施すべきと考える。

答 7月豪雨の際、上流より大量の雨水が山崎地内に流入し、水路より越水。よって村道が冠水し、通行止めとした。

村道側溝は十分な断面であり、基盤整備により設置した農業用水路に問題があると考えます。

解決策として、水路の断面改修を県・村・土地改良区とともに検討する。

村道改修整備については、損傷度合や整備必要性などを勘案すると、現時点では実施できない。

銅山川（通り流域）の河床掘削

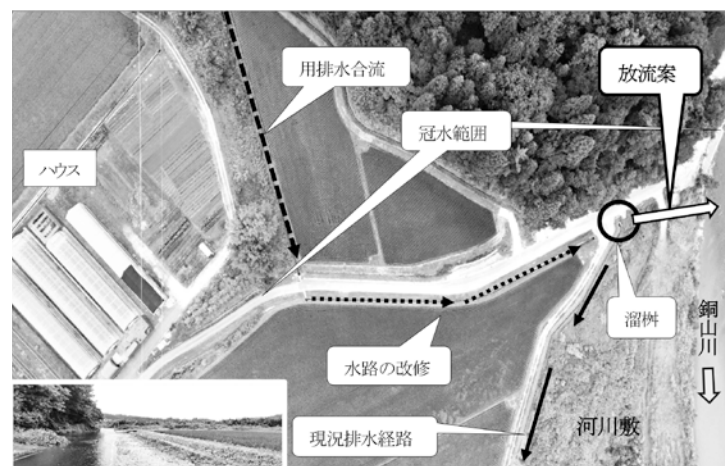
村長 県・関係機関に強く要望する

問 7月に銅山川流域（通り）地内で、越流が発生し田圃・トマトハウスが冠水した。令和2年と今回で再びトマトは壊滅状態である。これらの大きな要因は銅山川に堆積した中洲に2分

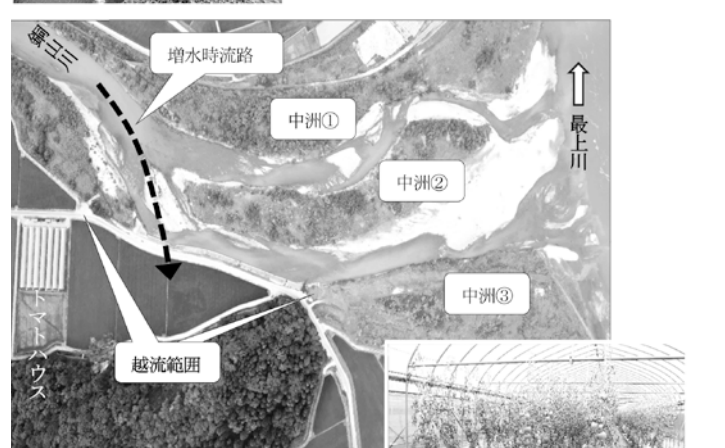
された水流が、道路を直撃越流し被害を起こしている。河床掘削による河道の拡幅を図り、流路を改善することはできないか。

答 令和2年7月豪雨以降、国土交通省による最上川河

道掘削が実施され、河川水位の低下や流下能力の向上に大きな効果が見られた。銅山川にある中洲が流下能力を低下させていることから、村として国や県関係機関に対して早期に実現できるような要望していく。



R6, 7/9・7/25 道路冠水



R6, 7/25 越流浸水



冠水後枯れる



伊藤 貴之 議員

肘折温泉に観光客を呼ぶために 村長 様々な形で支援する

問1 肘折温泉は西暦807年に開湯し、実に今年で1217年と言う伝統ある温泉地で、大蔵村の名前が肘折温泉とセットで知られていることもあり、村にとって大変に重要な地であると私は認識している。

しかし、数年前のコロナ禍により、宿泊者の数は、令和2～4年の平均で約42,500人となっている。その4年間のうち令和4年は48,892人と、コロナ禍でありながら宿泊者が50,000人に迫る勢いで

回復している。

当時、山形県を中心に宮城県でも、肘折温泉を紹介するラジオCMを流したので、お客さんが増えたのではないかと思います。旅館の経営者の方々に話を伺ったら、キャンペーンを利用している方以外にもCMを聞いて来た、というお客さんが多かったという話を聞いた。対外的に媒体を通じて発信することは、集客に一定の効果があると私は考える。少ない予算で効果が得られるような効率的な宣伝

回復している。当時、山形県を中心に宮城県でも、肘折温泉を紹介するラジオCMを流したので、お客さんが増えたのではないかと思います。旅館の経営者の方々に話を伺ったら、キャンペーンを利用している方以外にもCMを聞いて来た、というお客さんが多かったという話を聞いた。対外的に媒体を通じて発信することは、集客に一定の効果があると私は考える。少ない予算で効果が得られるような効率的な宣伝

広告への取り組みをしていけばよいと思うがそれを支援する考えは？

答1 令和5年度も温泉街活性化事業補助金として大蔵村観光協会が実施するラジオCMとチューブでの情報発信等のPR事業に対して200万円ほどの支援を行っている。

その他「ドカ雪・大雪割」「ひじおりの灯」等、マスコミ等に多く取り上げられるような宣伝効果の高い事業も今後、継続して取り組んでいく。

CM等宣伝広告事業については、その効果は見込めるが、多額の費用が課題となる。観光協会の誘客推進委員会で話し合いながら、効果的な対策をニーズにあった形で支援する。

問2 集客と同時に、従業員確保も行なっていくべき。様々な人材確保に取り組む事業者に対し、何らかの支援が必要だと思いがどうお

考えか？

答2 人口減少が著しい中で労働力を確保するのは、他の産業においても同様に

早急な対応を迫られている。公平性を保ちながら各業種に対し効果的な支援策を産業振興対策、労働関係対策、両面から検証していく。

他市町村の成功例や公的な制度、民間で行われている

るサービスなどを注視し、村にあった事業を見出し、課題解決に努めていく。



◀開湯祭の動画はこちら



開湯祭



早坂 民奈 議員

避難所運営の検証を

村長 今以上の体制を整えていく

問1 今回の災害は令和2年と比べ雨量が多い割には被害が最少に抑えられた。事前の河床掘削や堤防補強の効果があつたのではないかと。前回の質問に対し答弁をいただいたが、職員配置は適切か、その後の活動はどうであったか、気づきはどうか、今後の対策はどう考えているか、それらがどのようにに生かされたのか検証したい。

答1 令和2年の災害に比べ、住家の被害は少なかったが、国道458号線をは

じめとした公道、農地・農業施設、林野など大きく上回った。それらの対応に災害対策本部を設置し、5か所の避難所を開設した。避難者数は39名、運営スタッフは村職員で対応し延べ人数42名。今後防災士連絡協議会の協力を得ながら細かな対応をしていく。気づきとしては令和2年度の反省を振り返り、今以上の体制を整えていく。

問2 避難者は前回水や食料が準備されていたので、余り持たずに避難してきた

が、今回は無かった。用意した時には、すでに帰宅した後であった。どう考えるのか。

答2 夜間の避難であり次回からは準備する。

問3 中央公民館の駐車場に他県からの支援の方々が休んでいた。土曜日は避難所が開所して、その方たちも休むことができたが、次の日は閉所し車中にて休まっていた。公民館を開けてもらえないかとお願したところ、早急に対処して頂いた。今後も同じ事例があるかと思われるが。

答3 駐車場を借りたいとだけの依頼だったが、今後は考えていく。

問4 質問ではないが、作の巻地区において、土砂崩れにより排水用の燃料が確保出来ないところ、地区民が備蓄燃料を提供してくれた。これが本当の共助の力であり、感謝します。

交通弱者の救済は

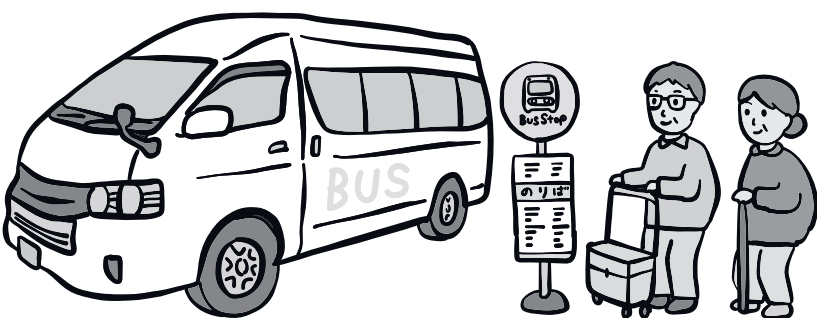
村長 バス利用者の利便性の向上を図る

問1 この質問は何度も行ってきた。村の施策の中の村バスの自由乗降のその後と、デマンドタクシーの導入について進展はどうか。

答1 清水作の巻線で1名、清水大坪線で1から2名の利用がある。まだまだ浸透していないので、広報等で知らせしていく。デマンドタクシーは運航費用等の経済性と効果を考え、路線バスを廃止して村外業者による運行は考えていない。

問2 その路線内では誰でも乗れるのか。

答2 路線内では乗降でき



須藤 敏彦 議員

災害時の防災行政無線の必要性

村長 災害時は「くらうち」と防災無線、両方を活用していく

問1 七月下旬大雨により、本村でも、国道458号線をはじめ、村道・農道の土砂崩れがおきた。

さらに、停電により通信障害が発生し、固定電話や携帯電話もほぼ繋がらず、住民から不安の声が多く聞かれた。本村の災害情報伝達システム「くらうち」からの情報も受け取れなかった。また、情報端末に不慣れな高齢者も多い。そこで今後は、防災行政無線を活用し、村民に的確

な情報を伝えてほしい。

答1 本村における最初の防災無線は、村の過去の歴史がそつであるように、災害の多い村。特に過去においては地滑りの多い村と言います。イメージもあつたことから、昭和63年整備を行った。当時はアナログ波だったが、平成25年にはデジタル波への切り替えを行い、令和2年7月の豪雨災害をきっかけに、村の防災無線の機能強化をすることとなった。雨の音で防災無線の声が

聞き取れない。また、聞き逃してしまった後にその内容を確認できないという苦情が多かったことに加え、コロナ禍における非接触での伝達という利点を併せ持つ、タブレットやスマートフォンアプリでの情報伝達の仕組みを考え、現在の「くらうち」の整備を進めてきた。現在ではタブレットによる「くらうち」での情報伝達をメインに防災情報や行政情報の伝達を行っている。

ただ、旧防災無線・タブレット、どちらにも共通する弱点は電気に依存しているということである。どちらのシステムも災害が長引けば繋がらなくなる可能性がある。

問2 今後、災害時に防災無線を活用していくのか。

答2 災害時は「くらうち」と防災無線の両方を活用し、村民に情報を伝えていく。



問3 問1に関連して、なぜ最上川の洪水を想定し、高台に避難所を開設せず、大蔵村ハザードマップの洪水浸水想定区域となつている大蔵村中央公民館に開設したのか。

答3 避難指示の発令基準は「大蔵村地域防災」の風水害編中、最上川中流洪水予報である。堀内観測所が7・6mを基準に警戒レベル3の高齢者避難等が発令される。第1回目の災害対策本部で、避難所の開設を決定し、水位は16時時点で2・1m基準を大きく下回っていた。基準水位が警戒レベル4の達した場合は避難所の移動も余儀なくされる懸念もあつたが、気温が高かつたため、空調設備のある中央公民館を選択した。今後も避難者の負担にならない避難所の開設を心がけたい。



佐藤 雅之 議員

肘折防災センター、夜間安全避難のために照明設置を

村長 コストを抑えた照明の設置に向け、早急に検討

問1 7月下旬の大雨特別警報発令の際、避難指示により、肘折防災センターにも避難者があつた。避難所への移動や帰宅が、夕方から夜間となったため避難所までの移動や駐車場から避難所入り口まで、暗い夜道を手探りで移動することになり、「暗くて、一歩間違えば（車と人の接触）事故になりそうだった」、「足元が見えなくて、移動が大変で怖かった」などの声が寄せられた。夜間の移動・避難対応が「盲点」となった。避難者が懐中電灯を灯火し

て避難するのが理想だが今後、温泉宿泊者も含め、避難者が多数出た場合、いっそう混雑・混乱することもある。防災センターの駐車場など、屋外の照明を適切に設置・灯火し、避難に伴う「二次災害」を生まないよう改善すべきではないか。

答1 避難所までの明かりの確保ができず、危険な中、怖い思いをしたとの点について災害時の「自助」、「共助」、「公助」の観点で答弁する。「自助」の部分では、全戸配布した災害対策マニ

ュアルをもう一度確認し、懐中電灯の準備をして欲しい。また、「共助」の部分では、自主防災組織に渡している、発電機と投光器を地域の中で活用してほしい。「公助」の部分では、2次災害防止の観点から避難所開設をはじめ役場職員の配置はできる限り明るいうちに対応を心掛けていく。避

難経路への照明設置については、蓄電池や太陽光充電機能のものなど、ランニングコスト（運用経費）を抑えた照明を設置に向けて検討する。

答2 早急に検討しなければならないと考える。



訪問介護報酬引き上げの声を地方から

村長 機会を捉えて地域の実情や要望を国等に伝える

問 国は、今年春の改定で訪問介護（ホームヘルプサービス）の報酬を2〜3%引き下げた。介護業界全体では、わずかながら報酬が引き上げの傾向にある中で、訪問介護は逆に引き下げられている。背景には、国が都市部の高齢者住宅の多い地域と地方の中山間地域が多く、移動距離や移動時間などが相当かかるなど、大きく条件が違ふ地域を「平

均化」して、あたかも訪問介護全体が「収益率が高い」として引き下げをおこなったことがある。

村も、村内唯一の事業所部門であった「ホームヘルプサービスすいめい」が令和3年3月末で休止し、村外からサービスの提供を受けている状況。在宅で介護が受けられるかどうかは地域への定住にも関わる問題。事業所の維持と職員の人手

答 都会の事業所と、訪問する家が離れ、時間がかかる本村のような地域では収益にかなりの差がある。在宅介護は、地域医療と訪問介護サービスが両輪となり成り立つもの。住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、包括的、継続的なサービス提供が求められる。介護人材の不足で利用者が取り残されないよう、様々な地域間格差の実情を機会を捉えて国等に伝えてゆく。



齊藤 光雄 議員

村政について村長に問う

問1 忘れぬうちに来る災害

浸水被害を受けた住民の方は、高台移転を検討しても、村には季の里団地の様な場所も無く、また庁舎建設地周辺は、墓地、村の中心地区は浸水想定区域、住宅地の裾野が広がる環境では無く、安心して住める高台への住宅地整備の確保が必要では。

答1 ライフラインの整備に多額の事業費を要し、移転する側も住宅の建築費用など多額の負担が生じ、住民の考えやニーズを的確に把握する必要があり、村の

住宅施策全体を考慮し検討としては。

答2 数名の方々が高台移転を希望するのであれば考えて行かねばならない。

問3 清水地区の内水

答3 先般、村では清水地区の関係者と国道の横断暗渠（函渠）等の現地調査を実施している。内容を精査した上で、内水対策検討会議を開催し再度関係者から

ご意見を聞き対応策を検討する。

問4 地区のほ場整備事業の中で、田面の高さ調整を行えば、近年失われた田んぼダム減少の補填となるのでは。

答4 関係者の協力対応が必要。

問5 合海地区排水ポンプ施設の整備について

答5 排水ポンプ場の設置については、国の補助事業も無く、財源確保の一つの方策として、緊急自然災害防止事業債の活用も含め検討する。

問6 庁舎建設について

答6 庁舎建設箇所にはボーリング調査を4箇所行い砂礫の硬い地盤があり、用地としての地質は充分であり、現段階で敷地全体の調査は考えていない。

問7 地質判定を明確にし、進めるべきでは。

答7 全ての調査終了後に、**問8** 東側を走る村道の路体部分のL形擁壁に軽微な異常や陥没箇所が見られる。また、今回の災害で山腹の崩壊事象が発生し、この地域の山の形態に異常が発生しているのでは。

答8 部分的に舗装にひび割れができている箇所とL型擁壁と側溝の間のモルタル部分が剥離している状況は、春先から確認しており、今回の雨との因果関係はないと考える。

問9 造成中の境界、擁壁基礎部分の根切り後の水位が下がらないか。

答9 下に硬い地盤があり、下がらないということと認識する。

問10 合海・大坪線道路改良に伴う、墓地移転先が当初より地盤沈下をおこし、今回の庁舎造成工事に伴い、益々の沈下を招くのでは。

答10 造成から27年が経過し、今後、大きな地盤沈下等が確認された場合、その都度対応していく。



広報常任委員会

令和6年度 町村議会 広報研修会

令和6年9月25日 ニッショーホールにて

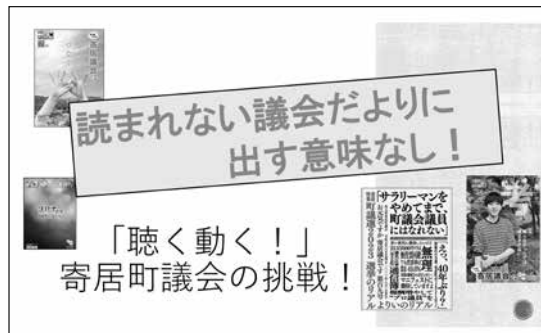
「**読まれない議会だよりに出す意味なし**」これは今回の研修会での、埼玉県寄居町の鈴木詠子広報委員の講義のタイトルです。住民の皆様は、いかに議会だよりを読んでもらえるかを考えた広報作成の取り組みのお話でした。

我々広報委員も、いつも大蔵村の皆様はどうしたら議会広報を読んでもらえるだろうかと考えながら作成にあたっていますが、この衝撃的なタイトルと内容には舌を巻きました。

寄居町の議会広報は、毎号何名かの住民に紙面に載ってもらい、さらにその方々に議会や行政に対しての忖度のない意見を発言してもらいます。その意見は、時に議員には耳が痛いことや、行政に都合が悪いこともあります。しかしながらあえてそれを記事にします。そのような紙面にすることによって、住民自身が、行政を自分の事としてとらえ、議会に関心がわき、紙面に目を通す、という効果が生まれます。このようなお話を聞いて、議会が住民の意見に正面から向き合っている姿勢がうかがえました。さらに議員も改めて住民の代表としての自覚をもって、活発な議論をするという好循環を生んでいます。

我々大蔵村の議会広報も少しずつ住民の皆様との対話をはかり、広報を通して議会を活性化し、行政へ住民の声が反映される社会を作らなければならないと強く思いました。そして、素晴らしい大蔵村をみんなで作り上げていきたいですね。

翌26日は、村民栄誉賞第1号の佐藤則武さん（沼の台出身 昭和24年生まれ）を訪問しました。詳しくは次号に掲載しますので、お楽しみに！ <伊藤 貴之>



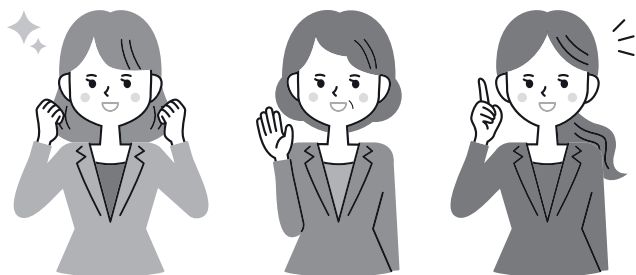
町村女性議員研修に参加して

令和6年7月31日 山形県自治会館にて

「女性議員と次世代目線から地方議会を考える」をテーマの研修に参加してきました。

山形大学人文社会科学部教授 中島 宏 氏の講演で始まり、4名の代表議員と3名の女子学生がパネラーとなり、活発な意見交換が行われました。

講演内容は①議会の環境整備②議会の情報発信③住民の関心度アップと知識の習得④議員の選挙・立候補の環境整備です。それぞれ全国や県内の事例に基づき、改めて議会及び議員活動を再認識しました。意見交換会は各議員の苦労や学生たちの疑問や考え方が、私的には年齢のギャップを感じ、これからの活力となりました。特に情報発信、関心度アップは「議会だより」について学生が検証し、文字が多すぎて、読む覚悟が必要、また、アンケートの回答者が高齢者が多く若者向けではないと、厳しい評価を受け、議員からは従来の編集を踏襲しており、この機会に変えても良いがすぐには出来そうもないと弱音が聞かれました。広報委員の立場から、村民に見やすく、分かりやすい「議会だより」を作るために、これから試行錯誤していきたくと思います。今回は女性議員が対象でしたが、議員のなり手不足や報酬など、全議員が考えていかなければならない内容でした。 <早坂 民奈>



委員会報告書

議会改革特別委員会

現在、議会改革特別委員会においては、改革の一環として、全国で問題視されている議員の「なり手不足」への対応に取り組んでいるところです。

まずは、県内22町村の実態調査し、議員定数や報酬等を、どうするのか検討中です。他に議会の刷新や、議員の資質向上に向けた課題に取り組んでいきます。

コロナにより議会報告会も停止中にあり、今後村民との対話をどのようにやったら良いか、議会に期待することとは何かなど課題が山積しています。

このことを踏まえて村民皆様のご意見を広く収集したく、今後アンケート調査を実施することとしています。

1月頃になるかと思いますが、その節はご協力よろしくをお願いします。

<委員長 八鍬 信一>



中央要望

令和6年7月24日から25日の日程で、村長、議員10名で本県選出、加藤鮎子衆議院議員、舟山康江参議院議員、芳賀道也参議院議員、秋田県選出の御法川信英衆議院議員、進藤金日子参議院議員を訪問し村に係る公共事業の予算確保などのお願いに上京しました。

内容は7件要望の内、前年度に引き続き本村に係る4件

1. 地すべり対策施設の維持管理予算の拡大について
2. 農業農村整備事業の予算確保について
3. 中山間地域の持続可能な農業への支援について
4. 農産物の適正な価格形成の実現について

以上4件について強く要望してきました。

また、御法川信英衆議院議員（元国土交通副大臣）に豪雨災害が頻発していることから、最上川中流直轄河川の整備促進、治水事業予算について要望してきました。また、進藤金日子参議院議員（財務大臣政務官）には、ほ場整備事業の予算確保について要望してきました。

25日は国土交通省草野眞一砂防部長を訪問し、前年に引き続き地すべり対策施設の機能・性能確保のための維持管理予算拡大を強く要望してきました。



村民インタビュー!!



Oh! 蔵SPORT(小屋久好理事長)の パークゴルフサークル

NPO法人Oh蔵SPORT(小屋久好理事長)のパークゴルフサークルを紹介します。「**限界集落を何とかするのになにかないか**」と住民から相談を受け、住民参加型施設づくりを発案し、2014年鍵金野のゲートボール場と私有地を会員と村民有志の力でパークゴルフ場に3年かけて作り上げました。元々は背丈ほどの草が生い茂る原野を手作業で草を刈り、焼き払いなど整備し、重機による整地、その後はただひたすら手作業での石ひろい、草の根取りなど大変な思いをして出来上がった“**カンカネノ パークゴルフカントリー**”素敵なネーミングですね。

お話を伺った菅野明顧問と事務局八鍬博幸さんは、当時関わってくれた多くの皆さんへの想いを熱く語ってくださいました。特に立ち上げ時の地区民の協力無くして進まずと、住民の理解を求め、設置計画の説明会を行い、山水の提供を受けたことが大きかったとの事。資金面では村地域活性化推進事業補助金を充当しましたが、不足分はボランティアの皆さんのお陰と感謝していました。景観が最高で月山、葉山はもちろん、雪の中に咲く桜など、今流行りの「映える」景色です。お話を伺い私たちも行ってみたい、パークゴルフをやってみないと強く感じました。いでゆ館で申し込み受付をして利用します。5月の雪解け時期から、11月の雪降るまでの毎週金曜日に会員はプレーしていますが、他の日も自由に利用できます。公式試合も出来る本格的なパークゴルフ場です。肘折に宿泊して利用する仙台や新庄など村外の方のファンもいて、村民が知らないのはもったいない。是非一度見て、プレーして見てください。



編集後記

「異常気象」2年連続最も暑い夏、気象庁は今年の夏(6月～8月)の日本の平均気温が1.76度上回ったと発表した。昨年は、猛暑で県のブランド米「つや姫」をはじめ、高温障害が発生し、一等米比率が47.4%と記録に残る平成21年以降過去最低であった。まだ今年の結果は出ていないが、2年連続であれば、ブランド米といえるのか。また今年の春、山形県生産量全国1位のさくらんぼが開花時期以降の高温による乾燥で、結実不良が発生し、収穫量が大幅に減少した。県においても、高温に強い作物の品種改良や水管理の指導に向け動き出している。

7月末には、庄内・最上を中心に猛烈な雨が降り、多くの人々の生活に影響を及ぼした。

今、地球温暖化の影響が深刻化している。少しでも食い止めるために、私たちが日ごろからできることは何か。どんなに小さいことでも地球の将来を思い、一人一人が実践していくことが大切なのではないか。

(須藤敏彦)

議会広報 常任委員会

委員長	早坂民奈
副委員長	斉藤光雄
委員	須藤敏彦
委員	伊藤貴之